

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300396		
法人名	医療法人社団大塚会		
事業所名	グループホーム からこ		
所在地	長崎県諫早市森山町唐比西1125-2		
自己評価作成日	平成 30年 7月 26日	評価結果市町村受理日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院と併設の為、医師や看護師との連携がすぐに取り合える様になっている。その為、緊急時にはすぐに対応できるようになっているので、安心した生活が送れる様になっている。
 毎月数回は法人内外での研修に各職員参加し、意識・技術の向上に繋がっている。また、介護福祉士取得率も職員の半数以上を確保している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

橘湾に面する自然豊かな環境の地に、地域に根差した母体医療法人と共に当該事業所は開設15年を迎えた。医療機関との併設は日常的な医療と介護の密接な関わりを可能とし、そのことが入居者や家族の安心へと繋がる自他共に認める特徴のひとつとなっている。法人は地域のニーズ集約を意識を持って関わっており、今年度は地域からの相談を受け、共用型デイサービスの開設へと繋がった。ホームが持つ機能を地域住民に提供することで、入居者の安全な暮らしの実現や家族の介護負担の軽減にも繋がっている。年々入居者が重度化し、心身共に専門性の高い支援が必要となってきているが、職員は法人内の研修で学びの機会も多く、他職種との交流の場や資格取得に向けたバックアップ体制づくりにも尽力している。生活の場において職員の専門的な知識が多く取り入れられることは、入居者一人ひとりへの支援の充実につながり、今後ますます期待の持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 たちばな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に日々のケアを行えるよう、話し合いを行い共有できるようにしている。又、その時々細かい事などは連絡ノート等を利用し統一したサービスが出来るようにしている。	ホームは入居者本位の理念を掲げており、共用空間や名札に明示し、職員の意識付けがなされている。職員は、日々の支援の中で入居者の言葉にできない思いを汲み取り、入居者一人ひとりに応じた支援が提供できているか常に振り返りながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人のお祭等に地域の方にも参加して頂き、慰問や、中学校の職場体験等も積極的に受け入れている。	ホームは自治会に加入しており、地域住民と顔が見える関係づくりに努めている。地域の祭りや行事にも積極的に参加し、地域ボランティアの慰問を受け入れながら入居者が共に同じ時間を楽しめるよう努めている。今年度は認知症家族の会の訪問もあり、入居者家族への活動の紹介や施設が持つ機能の理解にも繋がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さった方や、ホームの見学に来られた方々等からの相談や、質問に助言等を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活、サービス状況等報告し意見交換等を行っている。	運営推進会議は行政・自治会・民生委員等の参加があり、運営状況やホームの方針等が伝えられている。そこでの意見がホーム運営に取り入れられ、双方向的な情報交換の場としても活用されている。また、事故報告・身体拘束への取組状況の報告や入居者状況の理解を促しながら行われる等、運営の透明性が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ市長者にも参加して頂き、意見交換等行っている。介護保険の更新手続き等にも市役所へ出向き行っている。	市担当者との情報交換は主に運営推進会議で行われ、情報共有・協力関係の構築に努められている。法人による認知症サポーター活動への支援や、職員によるグループホーム連絡協議会事例検討会への参加等、法人・職員共に各種制度の理解や課題解決に向けた取組み・多職種交流に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は行っていない。センサー使用は個々の状態を十分に把握し検討を行い、主治医や、家族にも説明し同意を頂き、3ヶ月ごとに見直しを行なっている。	身体拘束については転倒予防の為にセンサー使用はあるが、センサー設置による入居者の負担が増えないよう自由と安全のバランスを考慮し、それぞれに応じた対応に努めている。また、身体拘束委員会による定期的な評価やセンサー使用状況のチェック体制が整備され、住環境の整備と並行しながら改善に向けた取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に出来るだけ参加し、入浴時や、更衣時に身対チェックし気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加しミーティングや申し送り時に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく説明を行い、疑問等を受けた時はその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にその時々々の状態報告を行い、会話を持つ様努めている。又、意見箱の設置も行っている。	管理者及び職員は、入居者の介護や治療方針を家族と共有しながら共に支える意識を持って日々の支援に努めている。職員は、入居者の日々の暮らしぶりを手紙や広報誌を通じて情報発信し、入居者や家族の身近な存在として信頼関係を築けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内で各委員会を設け、その都度意見を聞き、話し合いを行っている。	管理者は、職員からの提案・相談等があればすぐに話し合いの機会を設け、その場で解決できるよう努めている。また、職員の気づきや業務で生じた課題については職員間で情報共有しており、ヒヤリハット等には迅速に対応し事故を未然に防ぐ取組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員の話し合いの機会を設け、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会等に出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入っており、法人外の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人、御家族、ケアマネージャーからの情報収集を充分に行い、スタッフ間で共有し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを密に行い、不安や要望をくみ取れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族との話し合いを充分に行い、施設等の説明もやっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、出来る限り自宅での生活パターンに近づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話にて状態報告や、御本人の思いを伝え連携できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時ゆっくり過ごして頂けるよう、場所を提供したり、馴染みの場所へ出掛けたりしている。	職員は、入居者の些細な仕草や表情等から「帰りたい、行きたい」等の思いを汲み取り、家族への電話や面会の際の協力を繋げられるよう努めている。また、入居者が希望する場所には付き添う等し、馴染みの関係を継続できるよう努めている。入居者の大切にしてきた繋がりが途切れないようホームへの面会制限はない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、関係を把握し孤立しないよう寄りそうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院等に入院された時も、お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での行動や、会話の中から出来るだけくみ取る様努めている。	職員は、入居者の暮らしの意向や日課を大事に捉えており、一人ひとりの思いに添った支援に努めている。また、入居者ができることを優先に考え、声掛けを行いながら思いを確認しさりげない支援に努めている。声掛けの方法や住環境の整備など職員の専門性を持った関わりによって、入居前の暮らしに近づけられるよう取り組みられていることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を密に行い、スタッフ間で情報を共有し、より良いケアができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や、ミーティング、申し送りなどを通じ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、主治医意見等を踏まえ、スタッフで話し合い介護計画を作成している。	介護計画書の内容は職員間で周知が図られ、入居者毎に提供される援助内容が適切であるのか常に評価し、追加や修正で対応している。介護計画の立案の際には、家族の意向確認を行い現状の理解に繋げている。また、入居者が日常生活の中で取組みやすい内容を職員間で検討し、次期プランの作成にも繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート等を利用してスタッフ全員が情報を把握し、その都度話し合い見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて案を出し合い個々に合ったサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用、買い物代行、個別外出を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に添い、個々に合った受診を行っている。	同法人医療機関をかかりつけとしている入居者が多く、主治医が密接に関わりを持ちながら入居者の暮らしを支えている。かかりつけ医・他科受診共に職員が受診介助を担っており、他医療機関で入院に至った場合も治療経過を細目に確認し、状態が落ち着き次第同法人医療機関で受け入れ、早期にホームでの生活に戻れるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、相談を密に行い、緊急時にもスムーズに受診できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報収集を密に行い、スタッフ間で情報を共有し、より良いケアができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて主治医、御家族、ホームスタッフとインフォームドコンセントを行い出来る限りの支援を行っている。	看取りは、入居者の状態に応じてホームで可能な支援を家族と話し合いながら意向に沿うよう取り組んでいる。最終的に同法人医療機関での看取りとなることが多いが、ホームでも受け入れる準備は整えられている。また、医療の必要性が生じた場合にも、同法人医療機関・介護施設の看護師の協力を得ながらその方に応じた対応ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会へ参加したり、併設の病院看護師などへ相談等を行い指導を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行い、消火方法も学んでいる。	避難訓練は定期的に母体職員と合同で実施されており、ホームからは職員、入居者代表が参加している。避難誘導方法の手順確認や訓練における動作の振り返りがその都度記録されており、次回訓練に向けた法人としての体制が整備されていることが窺える。また、有事の際には地域の避難場所となり得ることから、防災意識の向上や入居者の安全確保の取り組みがなされている。	ホームは入居者の重度化に伴い支援が必要な方が増えている一方、法人内で管理されている訓練実施記録からは、ホーム代表者が感じた課題や振り返りの伝達が確認できない状況が窺われる。今後、法人との合同訓練にとどまらず、自主訓練への取り組みや全入居者参加型の避難訓練の実施等更なる取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けを行うとともに、個々の人格を尊重したケアを心掛けている。	職員は、入居者への尊敬の念を持ちながら視線や言葉の語尾などに注意を払い、安心して過ごせるような関わりを持つよう努めている。年2回接遇に関する研修を法人内で行い、支援する際の姿勢や相手に与える印象の振り返りも行われている。入居者を第一に考え行動する意識付けがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での表情や、会話等から思いをくみ取り自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその時々のペースや状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握し、本人の意志を大切にしよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、個々の状態に合った形態で提供している。	食事は入居者の身体状況に応じた食事形態で準備され、華やかなランチョンマットが食卓に彩りを添え、明るくしている。ミキサー食はとろみの加減が異なるものを準備し、食材の食感や形等の細やかな配慮もなされている。また、入居者が毎食の献立を手書きでボードに書き記しており、できる範囲の役割を担い生活に参加している様子も窺われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェックし、嚥下や、咀嚼状態に合わせた食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後毎回口腔ケアを行い、義歯は夜間洗浄剤を使用し消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用、排泄パターンを把握し日中は出来るだけトイレでの排泄を行うよう支援している。日中は出来るだけ布パンツで過ごすよう支援している。	職員は、排泄の際の声掛けや誘導方法、羞恥心への配慮を意識し丁寧な支援に努められている。無理なトイレ誘導は行わず、誘導時間や声掛け方法に変化をつける等入居者のリズムを大切にた排泄の失敗を防ぐ取組みがなされている。また、尿取りパットは必要時のみ本人の手の届くところへ準備し、本人ができるところはして頂く等の対応もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便状態を把握し、適度な運動等も支援し促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決めてあるが、その時々々の気分や状態に合わせて変更等行い楽しんで頂けるよう支援している。	入浴は、入るタイミングや手順等本人のペースに合わせて対応し、寛ぎながらゆっくりと入れるよう配慮されている。女性入居者が多いこともあり、化粧水や整髪等女性らしさを大事にした関わりも持たれている。また、重度化に伴い専門性の高い介護技術を必要とする入居者も多いが、羞恥心への配慮と安全に入浴できる体制を整え取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々々の室温を調整し、状態に合わせて臥床や、離床を促し等を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導にて薬剤師との報告、連絡を密に行い個々の状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、慰問、移動図書館などにて気分転換や、楽しみを持って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望には添えるように支援していきたいと考えているが、重度化に伴い外出出来ていない。	職員は、法人敷地内を入居者の体調に配慮しながら一緒に散歩し、季節感や外気に触れることができるよう努めている。しかし、気候による身体的な負担や入居者の重度化から外出支援が困難な状況を課題と捉え、外出への意識の変化を感じている。家族協力による個別対応、もしくはホーム中庭への畑の整備を検討し、外出が困難な入居者の気分転換が図れる方法を現在検討している段階にある。	母体医療機関と隣接したホームであることから体調管理に慎重な姿勢をとり、現在外出に消極的になる様子が窺われた。入居者個々の体力や意向を職員間で話し合い、少数者もしくは近隣の範囲などホームでできる範囲の外出方法を検討し、入居者の引きこもりや閉じこもりの防止に繋がる今後の取組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の金額を預かり、出納帳を個々に付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節、空気の入れ替え等、その時々により快適に過ごして頂けるよう心掛けている。又出来るだけ季節感を感じて頂けるよう配慮している。	ホームの食堂や廊下に面した大きな窓から見える中庭の木々から季節の移ろいを感じることができ、明るく差し込む日差しが共用部分に温かみを添えている。壁面には入居者の手作りの作品や職員の顔写真が飾られ、清潔感や家庭的な雰囲気も感じられる。車いす入居者も増えたことから入居者同士のスペース確保が難しい様子も窺われるが、席の配置を考慮しながら入居者の安全や入居者同士の関係づくりなど、細かな配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと過ごして頂けるようソファー等を配置し、環境整備にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族にお願いし、馴染みの家具等を持ってきて頂き居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	職員は居室が入居者個人の空間であることを意識されており、家族の協力を得ながら本人が大事にしてきた生活習慣が入居後も継続できるよう検討がなされている。家具の配置やベッドの向き、手回り品が手に届く高さに設置され、入居者らしい暮らしの実現に向け取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	全面に手すりの設置あり、車椅子でも使用できるトイレ、リフト浴も完備されている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ありあけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に日々のケアを行えるよう、話し合いを行い共有できるようにしている。又、その時々細かい事などは連絡ノート等を利用し統一したサービスが出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人のお祭等に地域の方にも参加して頂き、慰問や、中学校の職場体験等も積極的に受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さった方や、ホームの見学に来られた方々等からの相談や、質問に助言等を行った。また職場体験を通して認知症に対する支援・理解を得て貰えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活、サービス状況等報告し意見交換等を行い、助言・指摘を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ市長者にも参加して頂き、意見交換等行っている。介護保険の更新手続き等にも市役所へ出向き行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は行っていない。センサー使用は個々の状態を十分に把握し検討を行い、主治医や、家族にも説明し同意を頂き、3ヶ月ごとに見直しを行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に出来るだけ参加し、入浴時や、更衣時に身対チェックし言葉かけにも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加しミーティングや申し送り時に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく説明を行い、疑問等を受けた時はその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にその時々々の状態報告を行い、会話を持つ様努めている。又、意見箱の設置も行っている。 運営規定にも記載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内で各委員会を設け、その都度意見を聞き、話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員の話し合いの機会を設けている。 資格を取得したい者に対しては全面的にサポートする事で向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会等があると連絡したり、全員の目に入る所に貼りだしたりし、出来るだけ参加して貰えるよう声掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に入っており、法人外の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人、御家族、ケアマネージャーからの情報収集を充分に行い、スタッフ間で共有し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを密に行い、不安や要望をくみ取れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族との話し合いを充分に行い、施設等の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、出来る限り自宅での生活パターンに近づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話にて状態報告や、御本人の思いを伝え連携できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時ゆっくり過ごして頂けるよう、場所を提供したり、馴染みの場所へ出掛けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、関係を把握し孤立しないよう寄りそうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院等に入院された時も、お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での行動や、会話の中から出来るだけくみ取る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントなどを通して情報収集を行い、スタッフ間で情報を共有し、把握する事により良いケアができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や、ミーティング、申し送りなどを通じ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、主治医意見等を踏まえ、スタッフで話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノート等を利用しながらスタッフ全員が情報を把握し、その都度話し合い見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに応じて案を出し合い個々に合ったサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用、買い物代行、個別外出を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に添い、個々に合った受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、相談を密に行い、緊急時にもスムーズに受診できるようにしている。 非常勤であるが看護師も勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは情報交換を密に行い、その情報をスタッフ間で共有し、退院してきた時により良いケアができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて主治医、御家族、ホームスタッフとインフォームドコンセントを行い出来る限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会へ参加したり、併設の病院看護師などへ相談等行い指導を受け実践力を身に付けている。 応急手当普及委員の資格を持っている者もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に二回以上を目標にし、定期的に避難訓練を行い、各職員消火方法も学んでいる。 喫煙などは原則施設外で行うようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けを行うとともに、個々の人格を尊重したケアを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での表情や、会話等から思いをくみ取り自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその時々々のペースや状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握し、本人の意志を大切にしよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、個々の状態に合った形態で提供している。 状態に合わせて準備や片づけも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェックし、嚥下や、咀嚼状態に合わせた食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後毎回口腔ケアを行い、義歯は夜間洗浄剤を使用し消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用、排泄パターンを把握し日中は出来るだけトイレでの排泄を行うよう支援している。日中は出来るだけ布パンツで過ごすよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便状態を把握し、適度な運動等も支援し促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決めてあるが、その時々々の気分や状態に合わせて変更等行い楽しんで頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々々の室温を調整し、状態に合わせて臥床や、離床を促し等を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導にて薬剤師との報告、連絡を密に行い個々の状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、慰問、移動図書館などにて気分転換や、楽しみを持って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望には添えるように支援していきたいと考えているが、重度化に伴い外出出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の金額を預かり、出納帳を個々に付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って電話できるよう支援している。希望により携帯電話の持ち込みも許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節、空気の入れ替え等、その時々により快適に過ごして頂けるよう心掛けている。又出来るだけ季節感を感じて頂けるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと過ごして頂けるようソファ等配置し、環境整備にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族にお願いし、馴染みの家具等を持ってきて頂き居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	全面に手すりの設置あり、車椅子でも使用できるトイレ、リフト浴も完備されている。		